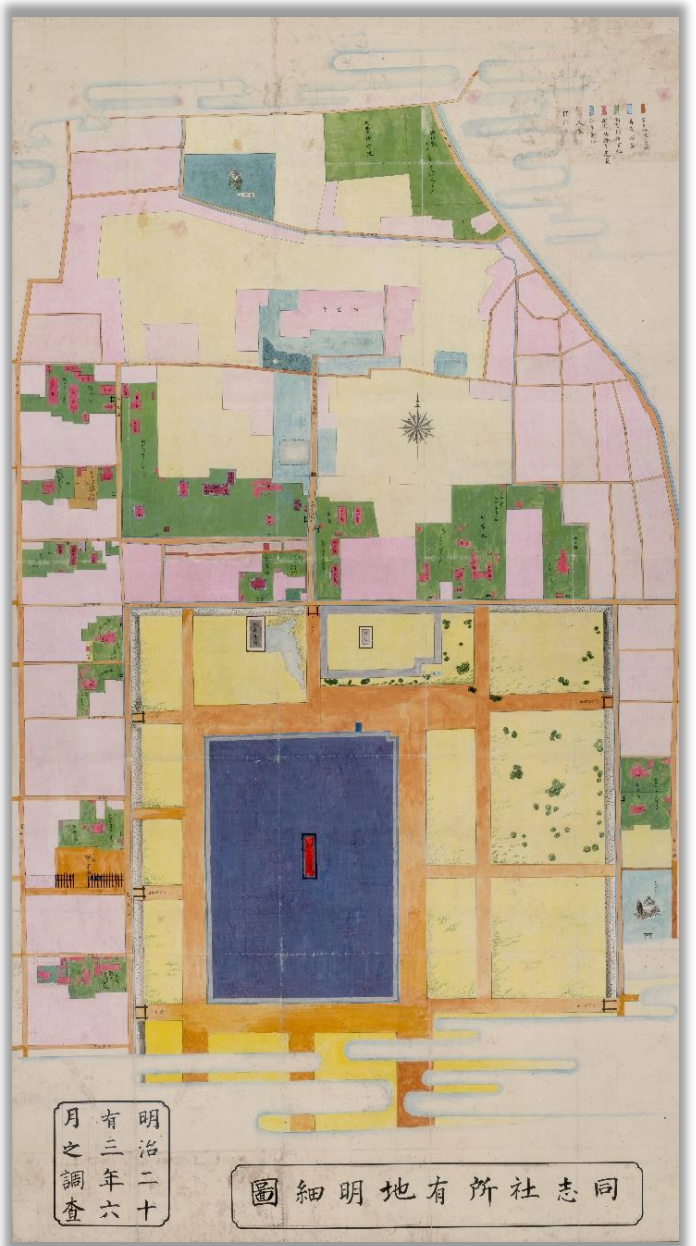
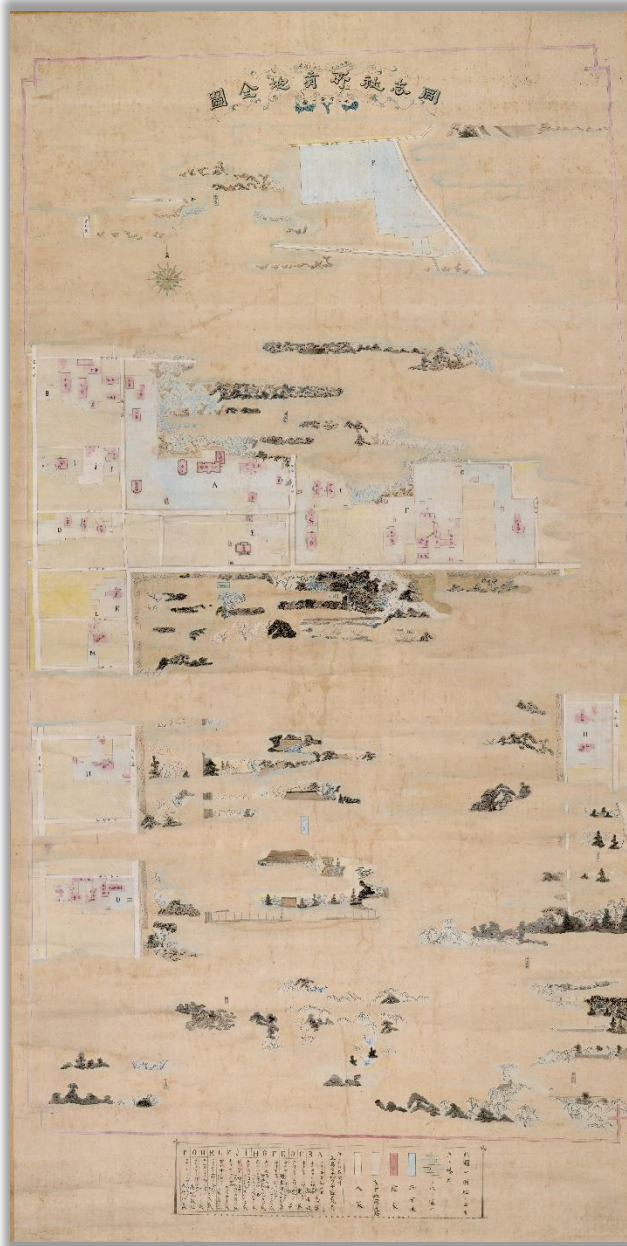




同志社京田辺会堂光館ラウンジ展示第7期展
「新島襄の学校構想
—新島の描いた Vision と Challenge—」



〔開催概要〕

同志社京田辺会堂光館ラウンジ展示第7期展

「新島襄の学校構想—新島の描いた Vision と Challenge—」

会期：2018年3月15日～9月中旬

会場：同志社京田辺会堂光館ラウンジ（同志社大学京田辺キャンパス）

主催：同志社大学キリスト教文化センター

協力：同志社大学同志社社史資料センター

表紙資料：（左）同志社所有地全図1890年（明治23） （右）同志社所有地明細図1890年（明治23）

ごあいさつ

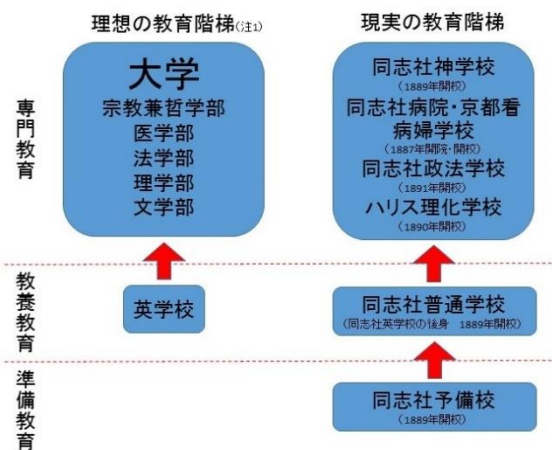
2015年度の献堂以来、同志社京田辺会堂光館（HIKARI-KAN）で1 Semesterごとに行っている展示は、学生の在学期間である4年（8 Semester）を1タームとした企画で、今回で7期目となりました。いよいよ最初の一区切りに近づいてきました。今回は、同志社大学の設立に向けた募金活動に焦点を当てた「同志社のORIGIN—ALL DOSHISHAからのサポーター」でしたが、今回のテーマは創立者、新島襄が理想とした学園像と実際に実現した学園の姿を明らかにした、「新島襄の学校構想—新島の描いた Vision と Challenge—」です。

前回展示しましたように、新島には、米国バーモント州ラットランド市グレイス教会で開催されたアメリカンボード第65回年会における涙ながらの訴えから始まって、生涯資金集めに奔走していたようなイメージがあります。しかし彼は、「経済は金をも労力をも消した力が、ききみ（効き目）を持たねばならぬ。ききみの好きが経済なり。」（同志社編〔2010〕『新島襄 教育宗教論集』岩波文庫、122-123ページ）と述べており、実は、大学設立に向けて土地を購入したり国債に投資するなど、「労力」に頼るだけではなく「ききみ」すなわち効率をも考慮した経済観念のある人物でした。今回の展示では、このような新島の実践と挑戦から、彼が理想とした大学の構想が幾分具体化していたことを表現したいと考えています。

新島の理想とした大学とは、キリスト教主義で、かつ、宗教兼哲学部、医学部、法学部、理学部、文学部、そして後には政治、経済に関する学科(学部)を備えた、いわゆる総合大学に近いものでした。そして、大学への入学前教育の場として同志社普通学校(旧・同志社英学校)が存在し、普通学校こそが広く深く学ぶ、現在脚光を浴びているLiberal Arts 教育の実践の場となりうると考えられていたのです。さらに、普通学校入学にふさわしい学力を身に付けさせる教育機関・同志社予備校を設け、同志社単独の教育階梯を構想していたのです。

2つの大学、4つの中学・高等学校、2つの小学校、幼稚園およびインターナショナルスクールの併せて14の学校を擁する総合学園となった今日の同志社を、新島は、天国でどんな思いで見守っているのでしょうか。

Visionとchallengeのイメージ図



(注1)新島襄筆原稿「同志社大学設立之主意之骨案」を参考に作成。

同志社大学キリスト教文化センター所長
横井 和彦
2018年3月

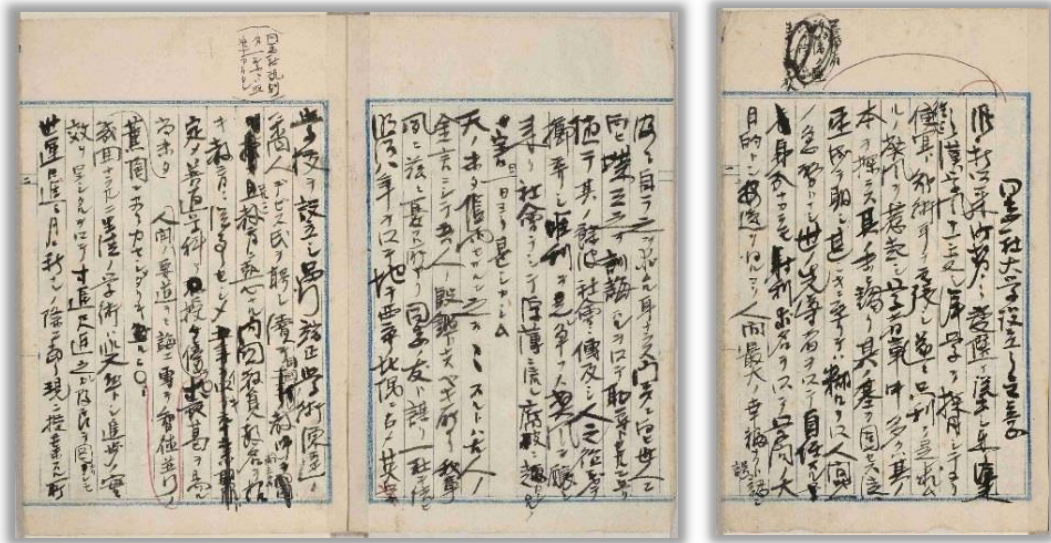
目次

ごあいさつ	1
展示テーマ「新島襄の学校構想」	3
展示テーマ「新島襄の実績」	13
資料リスト・使用写真リスト	22

展示テーマ

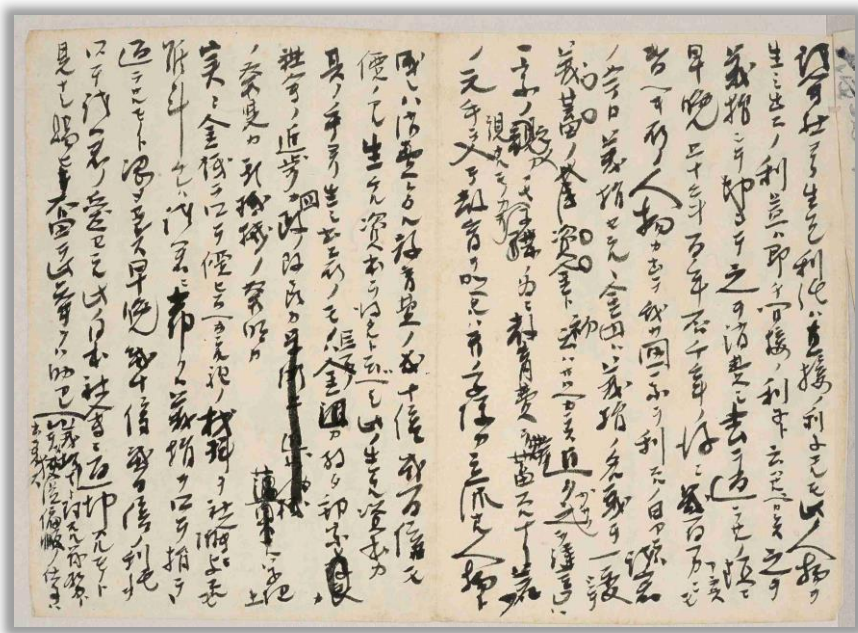
「新島襄の学校構想」

同志社の創立者である新島が、大学設立のために東奔西走していたことは比較的よく知られていますが、新島が大学設立運動の最初期にまとめた草稿を見ると、既存の同志社英学校を中心に、英学校の教育をさらに進めた大学だけでなく、英学校に入学するための予備教育の学校設立を視野に入れていたことがわかります。ここでは、新島が理想とした同志社の姿を窺い知ることができる資料を紹介します。



同志社大学設立之主意之骨案 (複製) 1882年 1冊 26×19cm

1882年(明治15)11月に新島が下書きした同志社大学設立を世に訴えるための文章で、現存する最も古い草稿です。新島が考えた最初の学部構想は、最初に宗教兼哲学部、医学部、法学部を優先して設け、資力が伴えば、理学部および文学部を設けるというものでした。また、大学の必要性を感じた理由は、当時行われていた同志社の授業の内容は「學術ノ大意初歩」であり、「學術の奥蘊(原文ママ)」、すなわち専門的に学問を修める場を準備する必要性と需要を認識したことが挙げられています。



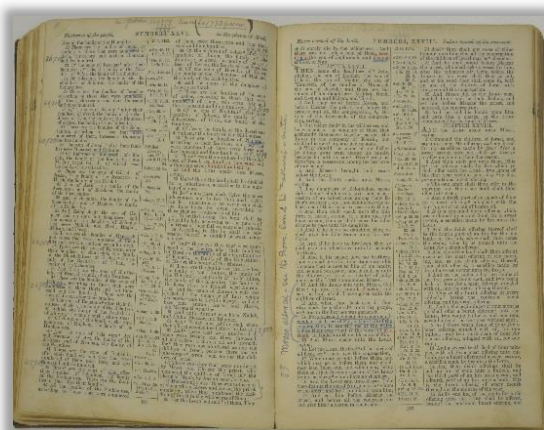
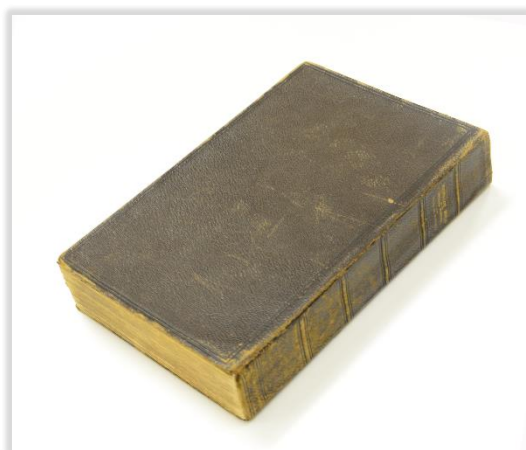
演説草稿 (複製) 明治時代 3枚 25×35cm

1889年(明治22)ごろに新島が大阪で行ったと考えられている演説の草稿です。将来大規模な経済発展が見込める大阪の人々からの募金(義捐金)を募るために、募金の意義と同志社大学が果たす役割が説かれています。募金とは見返りのない行為ではなく、将来の社会発展に貢献する人物の育成に寄与し、結果、のちの間接的利益につながるとし、その人物の育成に同志社大学が貢献するとあります。



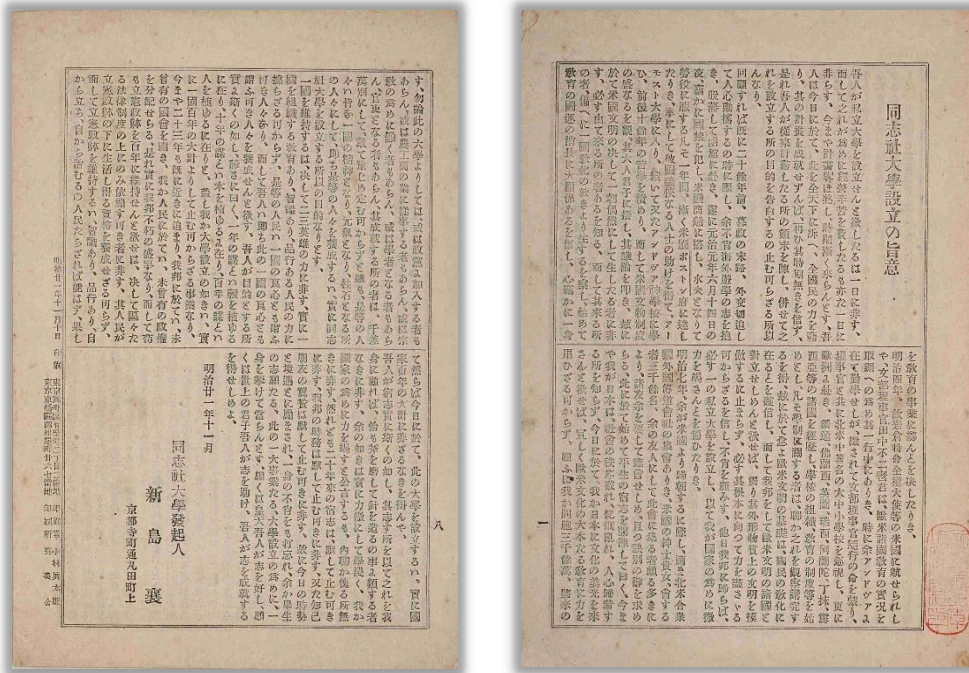
自責の杖 (複製) 明治時代 3片 最大60cm

打掌で折れたとされる新島の杖です。1880年(明治13)4月、当時2年生の上級組と下級組の合併決議を発端とする学内ストライキが発生し、学内が混乱しました。新島は同月13日の朝礼の席で、一連の騒動は学生や幹事の責任ではなく校長である自らの責任として、自らの手を杖で打ちつけました。この衝撃的な事件を物語る杖は、新島のキリスト教信仰に係わる贖罪感、そして教育観を伝える象徴として、これまで受け継がれています。



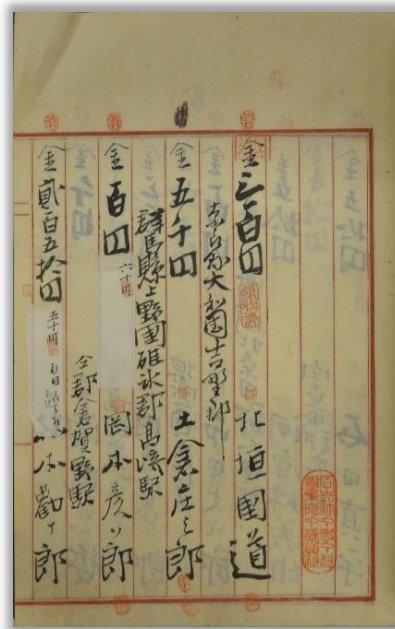
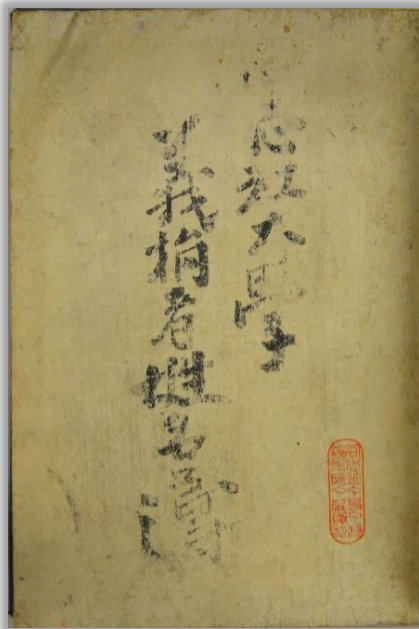
新島襄旧蔵聖書 (複製) 年不詳 1冊 21×14cm

新島がアメリカに到着した翌年に、ハーディーが後見人を務めていたJ.M.シアーズ (Joshua Montgomery Sears, 1854~1905) より贈られた英文の聖書です。手書きのメモや印は、新島のキリスト教に対する知的好奇心や信仰の深化過程を示しています。同志社は新島の在世中から自然科学や社会科学の専門学校を次々と開校させますが、その大前提としてキリスト教を徳育の基本としていました。この聖書は、同志社のキリスト教主義の歴史と重要性を示す資料の一つです。



同志社大学設立の旨意 (複製) 1888年 1冊 21.5×14.8cm

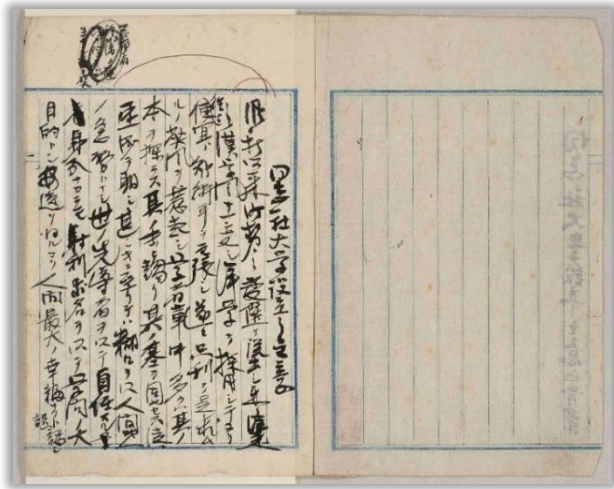
1888年(明治21)11月から配布されたパンフレットです。新島襄が骨子をつくり、徳富蘇峰が文章化したと言われます。この内容は、全国の新聞や雑誌に掲載され、国内で広く広報されました。この中で新島が訴えた大学設立の目的は、「一国の良心」を育てることでした。



同志社大学義捐者姓名簿 (複製) 1889年 1冊 26.5×18cm

1889年(明治22)にまとめられた義捐金寄付者の名簿です。この名簿には大口から小口の寄付まで、寄付者の姓名が、匿名の希望がない限り、実名で記載されています。幅広く社会から支持を得て大学を設立しようとした意図が窺える資料です。

<新島襄の学校構想>



同志社大学設立之主意之骨案 1882年（明治15）



同志社所有地明細図（部分） 1890年（明治23）

新島襄は1875年（明治8）同志社英学校を開校した7年後の1882年（明治15）、大学を設立するために募金運動を開始します。その年にまとめた草稿「同志社大学設立之主意之骨案」にて、設立予定の大学、現存の英学校を含めた学園構想と、それぞれの学校の教育的関連性を記しています。新島が考える大学は、宗教兼哲学、医学、法学、理学、文学の各学部を備えた専門教育を重視したもので、英学校は大学入学前教育でした。各学校の教育内容に関する詳細な説明はありませんが、この構想は、大学用地として上御霊神社東側の旧彦根藩邸跡あたりの土地約7338坪を入手するなどして、新島が永眠するまでの7年間で実際に形作られていきます。

<同志社礼拝堂>



竣工当時の同志社礼拝堂



竣工当時の礼拝堂内部

同志社礼拝堂が完成する半年前の1885（明治18）年12月18日、定礎式が挙行されました。この時新島は「教育ノ基本ハ宗教ニアリ」、「此礼拝堂ハ我同志社ノ基礎トナリ又タ精神トナル者」と述べ、礼拝堂が同志社の象徴的存在であることを示しました。現在もこの礼拝堂はチャペル・アワーなど宗教教育の中心的な場を担っています。

<同志社書籍館 (現有終館) >



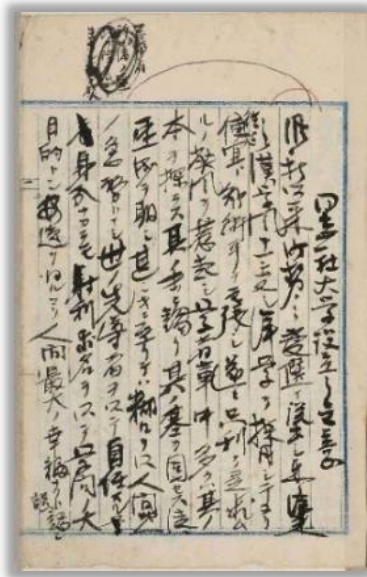
大正時代の書籍館



明治時代の書籍館内部

1887年(明治20)に竣工した同志社の初代図書館。内部には書庫と閲覧室に加えて、自然科学の実験室、そして新島の執務室があったと言われます。新島は学校における図書館の重要性について、しばしば演説や手紙の中で触れました。特に同志社大学設立運動時の演説草稿には、参考事例として海外の大学図書館(主に蔵書数)を頻繁に挙げています。新島は豊富な蔵書や施設の充実が、学校の高い学問水準の実証と考えていたようです。

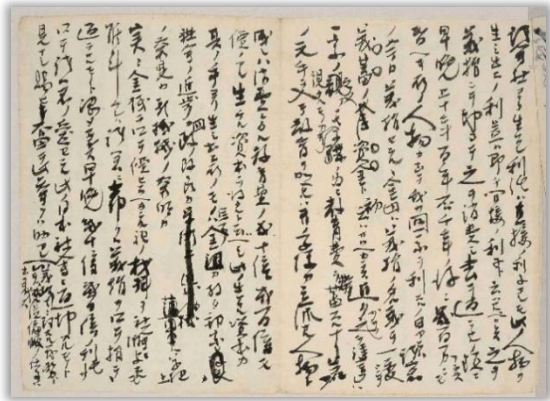
<新島襄が考えた同志社大学>



同志社大学設立の骨案 1882年(明治15) 同志社大学設立の旨意 1888年(明治21)

新島は開校から7年後に同志社大学を設立するための募金運動に着手します。当時、大学と名の付く学校は東京大学のみでした。新島襄が書き残した資料には、なぜ大学が必要か、大学が国家や社会に対してどのような役割を果たすかを、アメリカやイギリスの事例を用いて説明しています。これを前提として、1882年(明治15)、新島は5学部(宗教兼哲学、医学、法学、理学、文学)を備えた大学の設立を構想しました。そして、1888年(明治21)の時点では神学、政治、経済、哲学、文学、法学などに関連した学科設置を優先と考えるようになっていきます。大学で学ぶ分野に関しては世の中の動きに合わせて変化しましたが、「基督教主義を以て、我が同志社大学徳育の基本と為す」という学生・生徒の内面に対する教育方針は不変でした。

<新島襄が伝えた寄付の意味>



演説草稿

諸会社ヨリ生ヌル利純ハ直接ノ利子ナルモ此人物ヲ生シ出スノ利益ハ即チ間接ノ利子ト云ハサルベカラス之ヲ義捐シテ之ヲ消費シ去テ返ラサルノ類ニアラス早晩五十年百年否早年ノ後二幾百乃ニモ替ヘキ所ノ人物カ出テ我カ国家ヲ利スルノ日アラハ諸君ノ今日義捐セラハ金円ハ義捐ノ名義ヲ一変シテ義蓄ノ資金ト初云ハサルヘカラス近ク少サク之ヲ譬フレハ一家ノ親ナルモノカ其子供ノ為ニ教育費ヲ貯蓄スルナリ差少ノ元手ヲ入テ教育ヲ加ヘタルハ其子供カ立派ナル人物ト成レハ消費シタル教育費ノ幾十倍幾百倍モ價ノアル生ケル資本ヲ得タルト云ベシ此ノ生ケル資本カ其ノ手ヨリ生ミ出ス所ノモノハ巨万ノ金円カ將タ邦家社会ノ進歩カ国政ノ改良カ学理上ノ発見カ新機械ノ發明カ実ニ金錢ヲ以テ價ヒスヘカラル程ノ材料ヲ社会ニ附与スルモ難斗ケレハ諸君ニ希クハ義捐ヲ以テ損テ、返ラサルモノト認ラレス早晩幾十倍幾百倍ノ利純ヲ以テ諸君ノ愛セラハ此ノ日本社会ニ返却スルモノト見ナシ賜ヒ奮テ此輩ヲハ助アレ(義捐者ニ対スル義務トシテモ狭隘偏頗ノ仕事ハ出来ス

釈文

明治時代に寄付という考え方が世間一般に浸透していたかは定かではありません。そのためか、新島は寄付を呼びかける際に、その寄付の意義も伝えています。新島は大阪での演説で、同志社大学設立のための寄付(義捐)として寄せられる金銭を「義蓄資本」あるいは「義蓄ノ資金」と表現しています。その理由は、高度な専門性と道徳性をもって社会の進歩に貢献し、日本国民に多大な恩恵をもたらす人物を育成する大学への金銭的投資は「間接ノ利益」であると同時に「金銭ヲ以テ価ヒスヘカラル程ノ材料」を社会に与え、結果としてこれを享受することになるとしています。無から作り上げる新しいものへの理解と期待を訴え、それに対する義務の遂行を約束する形で、新島は大学設立への協力を求めました。

<同志社大学の誕生>



1



2

1 専門学校令による同志社大学開校式 1912年(明治45)

2 専門学校令による同志社大学開校記念集合写真 1912年(明治45)

同志社大学がこの世に初めて誕生したのは1912年(明治45)5月、専門学校令による同志社大学が開校した時でした。盛大な開校式が催されたことが写真からもうかがえます。ただし、この時の大学は文部省が規定するところの専門学校という位置付けであり、学校制度上最高位に位置する大学ではありませんでした。大学として認められたのは、1920年(大正9)に大学令による同志社大学の開校認可を受けた時でした。同志社大学は、明治大学、法政大学、中央大学、日本大学、國學院大学の5校と共に、日本で3番目に大学設立の認可を受けました。

＜同志社教育のバックボーンとなるキリスト教主義＞

キリスト教に基づいた「良心」に従って生き、
その「良心」の中で「自由」を行使する



創立者 新島襄

同志社教育のバックボーンとなる キリスト教主義

1864年6月14日、愛国心に燃えて脱出した新島襄は、欧米の知識を得たいという思いに加えて、神の存在を知り、もつと聖書を学びたいという志ももっていました。新島は日本を脱国する前、20歳のころには漢文で書かれた聖書を既に読んでいたのです。

およそ10年に及ぶアメリカでの生活を終え、アメリカン・ボードの宣教師となって日本に戻った新島は、京都に同志社英学校を設立します。新島の理想の教育は、「知徳併行による人物の養成」でした。「信仰」と「學術」を車の両輪のように考えていました。知識に偏らない、徳育も併せもつ教育であり、その徳育の基本がキリスト教でした。

そして、新島は、他者に奉仕し、他者に「与える」精神性（「受けるよりは与えるほうが幸いである」―使徒言行録20章35節）を有する人物を同志社から輩出することを望みました。つまり、利己心ではなく、利他心（良心）をもつ青年です。それを端的に表現したのが、「良心碑」に彫られている「良心之全身ニ充滿シタル丈夫オトコノ起リ来ラシム事ヲ」です。

皆さんが、学生生活を通して同志社大学のキリスト教主義について考え、良心を育み、卒業後、社会のそれぞれの場所でその力を発揮することができるよう願っています。

キリスト教文化センター所長

<チャペル・アワー (キリスト教文化センター主催) >



京田辺校地 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂

開講期間中、両校地の礼拝堂においてそれぞれ週 3 回行われており、現代に生きる人間の諸問題をめぐって、本学教職員や教会の牧師、そして様々な分野で活躍されている方々に奨励していただいています。チャペル・アワーは礼拝形式であり、オルガンの奏楽で始まり、讃美歌斉唱、聖書朗読、祈祷、奨励者によるメッセージ、祝福などが行われています。クリスチャンでない方々にも親しみが持てるように、日々の暮らしにまつわる話などを交えながら、イエス・キリストや聖書のことばをわかりやすく語っていただけます。また、教職員の場合には、同志社におけるご自身の学びや体験をお話されることもあります。学生の皆さんだけでなく、地域の方々も参加されていますので、ぜひ気軽にお越し下さい。

	京田辺校地	今出川校地
火曜日	ランチタイム (12 : 35 ~ 13 : 00)	17 : 30 ~ 18 : 10
水曜日	15 : 00 ~ 15 : 45	10 : 45 ~ 11 : 30
金曜日	ランチタイム (12 : 35 ~ 13 : 00)	ランチタイム (12 : 35 ~ 13 : 00)

<Doshisha Spirit Week (キリスト教文化センター主催) >



同志社大學應援団による演舞



講演会



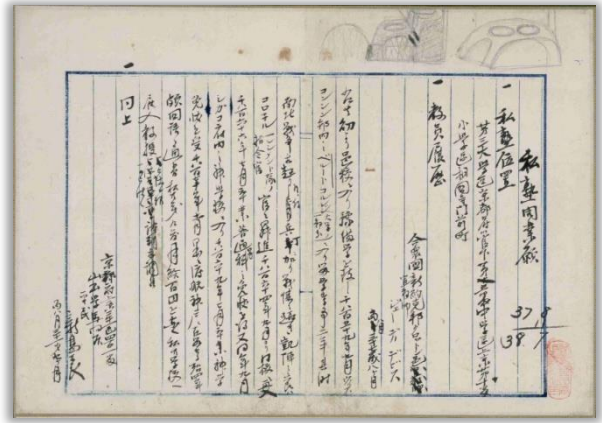
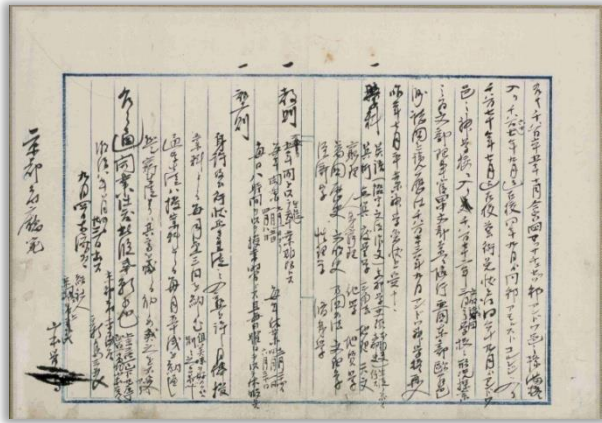
キャンパスめぐり隊

同志社大学には、建学以来脈々と受け継がれてきたキリスト教主義教育、新島襄の教育理念、そしてその実践といった建学の精神と伝統があります。Doshisha Spirit Week は、キリスト教主義教育や創立者新島襄に触れ、同志社人としてのアイデンティティを高めることを目的として2003年から始まり、毎年春学期（5月末～6月初旬ごろ）と秋学期（10月末～11月初旬ごろ）に1週間開催されています。期間中には、学内外からのゲストスピーカーによる講演会、建学の精神や同志社の歴史に関する資料展示、キャンパス内を中心に見学する「キャンパスめぐり隊」や同志社大學應援団による演舞などさまざまな企画を行っています。

展示テーマ

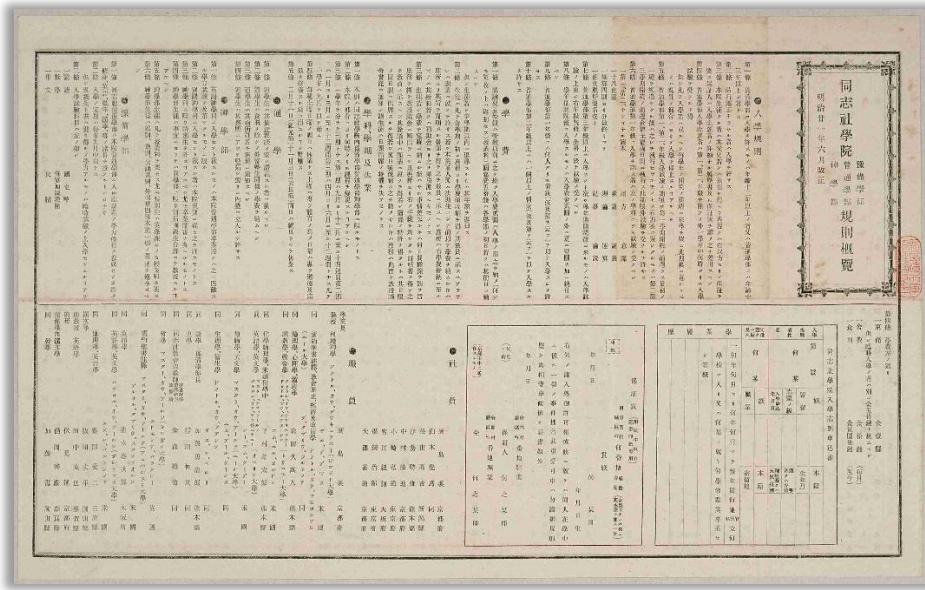
「新島襄の実績」

同志社の理想の姿を思い描いた新島は、その実現の為に活動を展開します。大学設立のための募金運動への傾注がとりわけ指摘されますが、新島の活動は同志社全体の発展を想定しており、着実にその成果が創出されていたことが窺われます。ここでは、新島が永眠するまでに同志社に残した事跡をあらわす資料を紹介し、新島の事績を考えます。



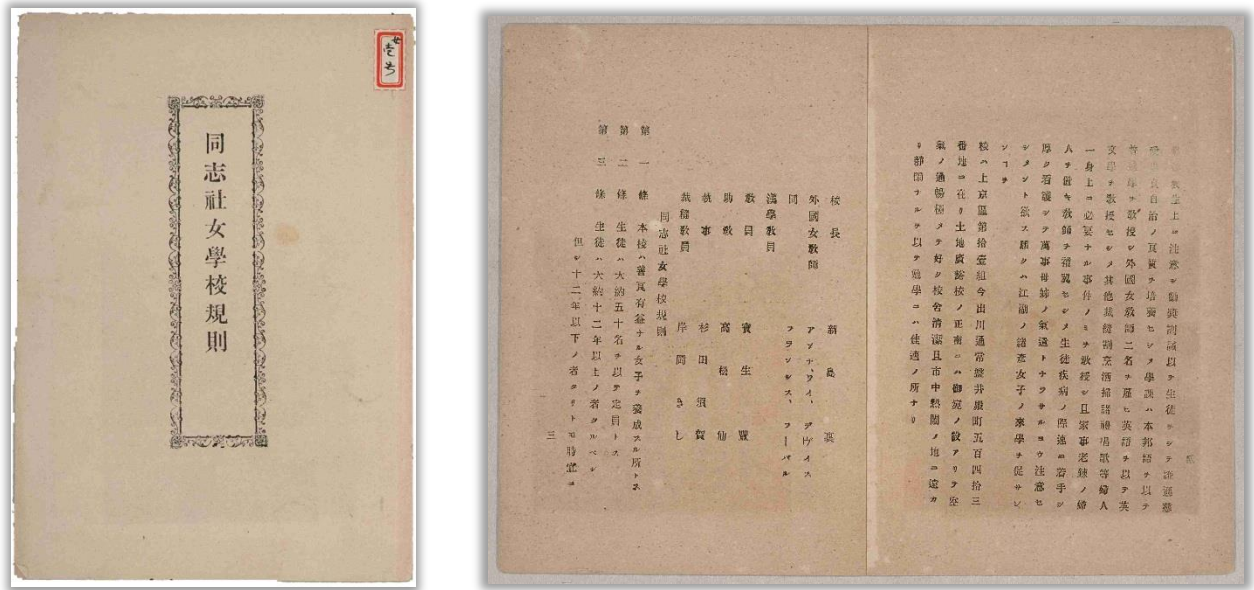
草稿「私塾開業願」(複製) 1875年 1巻 本紙25.7×35.8cm

京都府へ提出した書類の草稿(1875年(明治8)8月4日付)です。教員となるJ.D. デイヴィスと新島の経歴、実施予定の学科(教科)、現在の学則にあたる教則と塾則がまとめられています。同志社は開校時からキリスト教主義の学校ですが、開校前に京都府へ提出したこの資料には、キリスト教に関する学科がほとんど挙げられていません。新島が、同じく開校前に聖書を学校で教えないという誓詞を京都府に提出したと関係があるかもしれません。いずれにせよ、この草稿をもとにした正式な書類により、新島は京都府から私塾開設の認可を得ることになります。



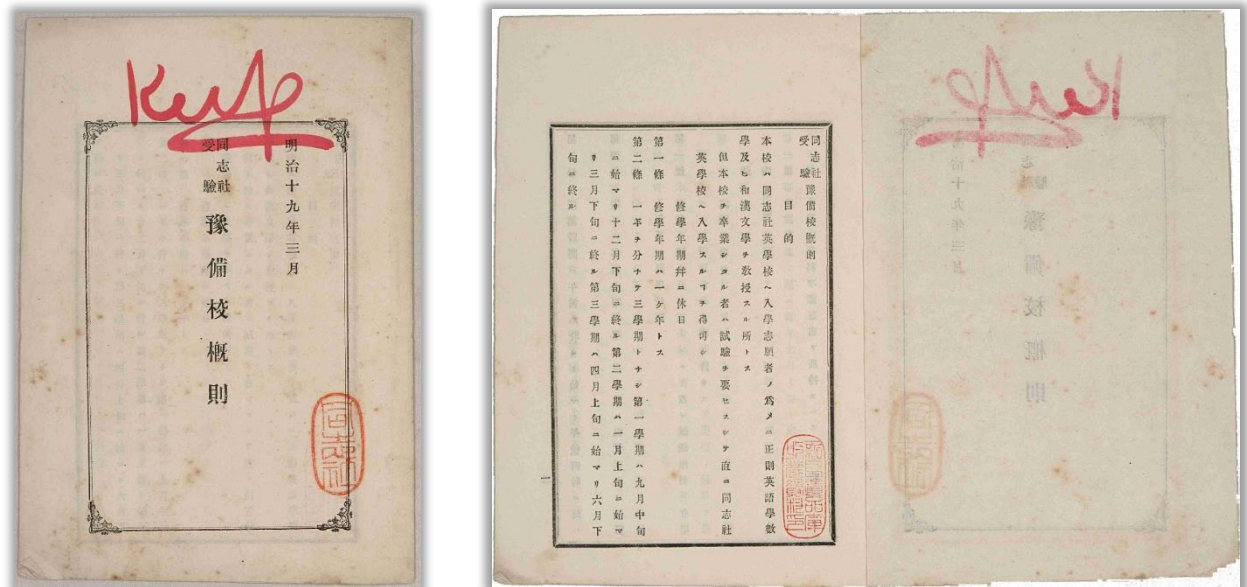
同志社学院規則概覧(複製) 1888年 1枚 32.7×52.3cm

1888年(明治21)6月時点での同志社内の学校概要を示す資料です。この年、同志社英学校が改組し、予備学部、普通学部、神学部を備えた同志社学院となります。学生数は683人(神学部72人、普通学部405人、予備学部206人、すべて年度末在籍者数)でした。さらに、翌年1889年(明治22)に3つの学部はすべて単独の学校となります。この3校に、同志社女学校、京都看病婦学校、そして同志社病院を加えた5校、1病院が当時の同志社の主要教育施設でした。



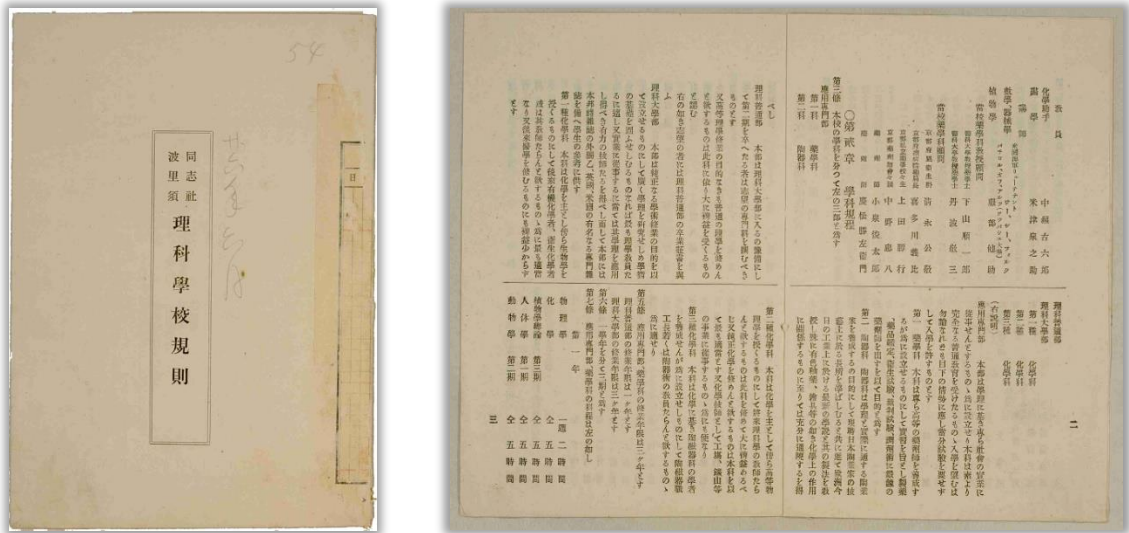
同志社女学校規則 (複製) 1883年 1冊 19.1×13.2cm

1876 (明治9) 年、女子塾としてデイヴィスの自宅で始まった学校は、現在の同志社女子大学や同志社女子中学校・高等学校のルーツで、開校の翌年には同志社分校女紅場、その後同志社女学校と改称します。京都における女子教育の先達の一つです。



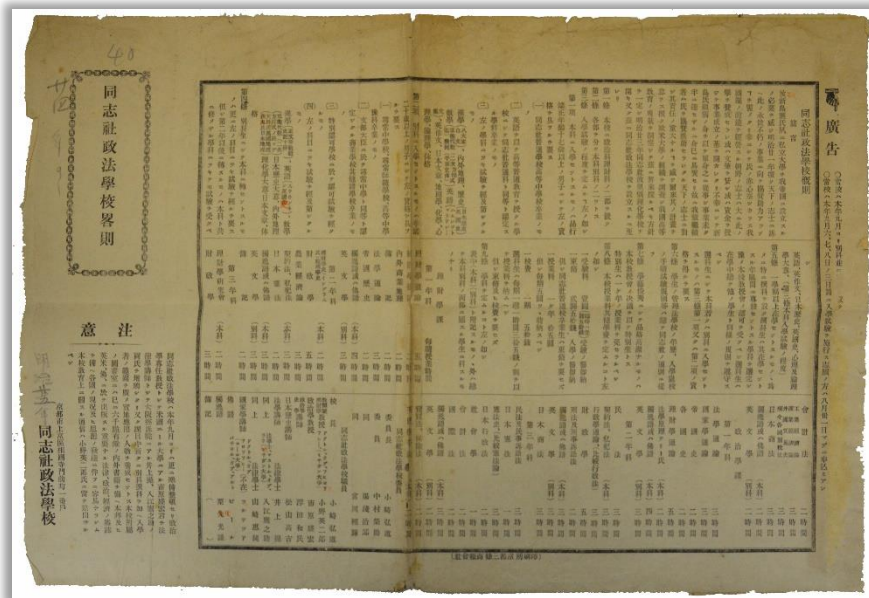
同志社受験予備校概則 (複製) 1886年 1冊 19.7×13.7cm

同志社予備校の受験及び学校生活に関する規則集です。予備校は同志社英学校の準備段階の教育として英語、数学、和漢文学を教える学校であり、12歳以上で1年間学んだ者は同志社英学校に無試験で進学できました。予備校の設置は、大学という施設とそこで学ぶ質の高い学生の確保の双方が新島の考えを実現したうちの一つです。



同志社ハリス理化学校規則 (複製) 1893年 1冊 21.9×15.2cm

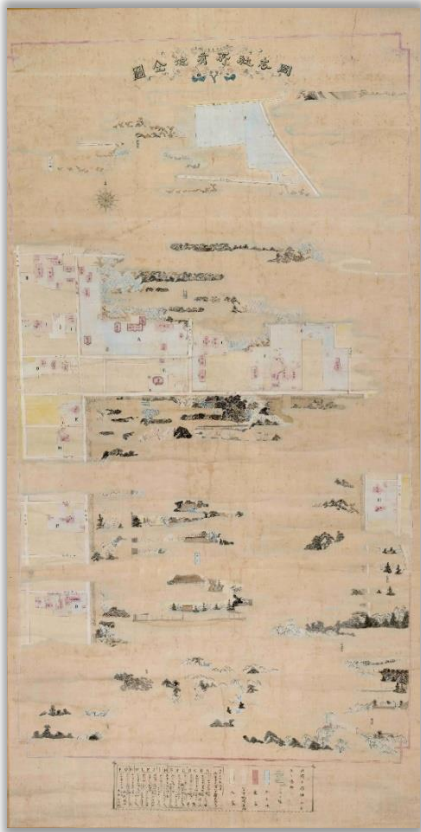
1893年(明治26)6月に発行された規則集です。この規則によると、無試験で理化学を学ぶ者に開かれた応用専門部(薬学科と陶器科)、理化学専門教育をさらに深化させる理化大学部、さらに大学部入学前教育を実施する理化普通部という3つの部門が、正式開校から2年後には設けられ、相関して理化学教育の効果を挙げるのが想定されていたが窺われます。



同志社政法学校略則 (複製) 1892年 1枚 28.8×42.2cm

開校当初に発行されたと考えられる政法学校に関する学則です。法律に関連する専門教育部門の設立は、新島襄が大学設立運動を始めた時からの主たる目的で、その実現が政法学校であると緒言に書かれています。政治科と理財科のそれぞれが、年齢や出身校、試験などで本科と別科に分けられ、4つのコースが設けられました。さらに、1学期間以上在籍する生徒・学生には選科生となることができる制度を設けるなど、学習機会の門戸を広げた学校です。

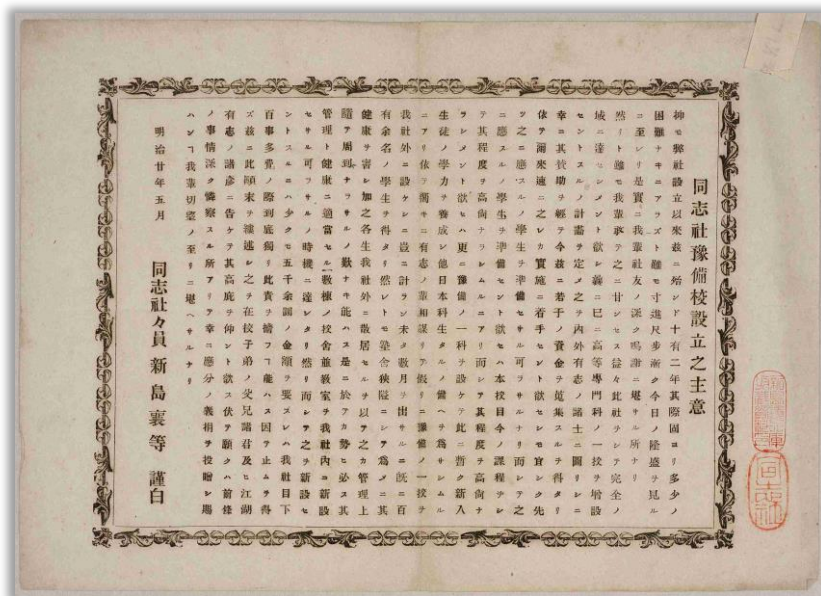
<新島襄の実績>



新島襄が同志社の運営に携わった期間は約15年間です。この間、新島は教育者として、牧師として大きな影響を残しましたが、同時に、この15年間で同志社に多くの有形無形の資産を残しました。新島が永眠した5ヵ月後にまとめられた絵図によると、同志社の所有地は今出川を中心に約34,000坪で、開校当初の今出川キャンパスの約5倍にあたります。また、新島の在世中に大学開校は実現しませんでした。代わりの専門教育機関として、同志社神学校、同志社病院・京都看病婦学校、新島の永眠後にはハリス理化学校、同志社政法学校が開校します。そして、同志社英学校は専門教育の準備教育機関として同志社普通学校に整備され、さらに、同志社普通学校入学の準備教育として同志社予備校が完成しています。新島は構想していたことをさらに充実させて、準備教育から専門教育に至るまでを同志社の中で完結するように永眠の間際まで実現に尽力しました。

同志社所有地全図 1890年（明治23）

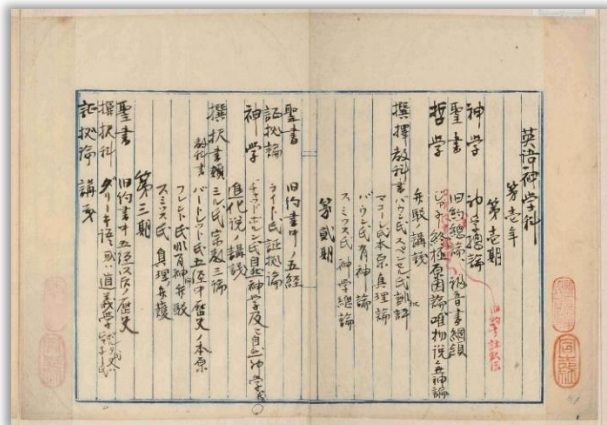
<同志社予備校>



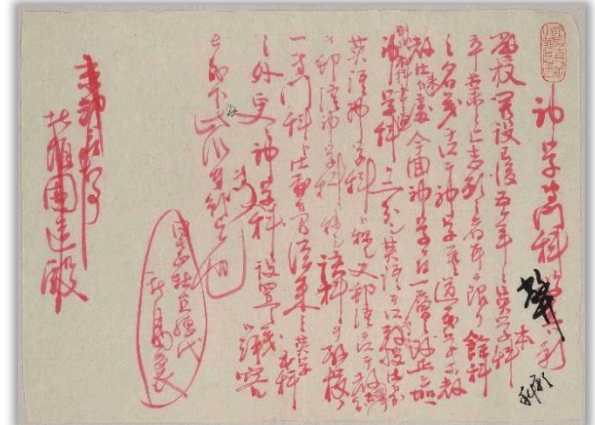
同志社予備校設立之主意 1887年（明治20）

1887年（明治20）、同志社英学校（のちの同志社普通学校）への入学準備を行う学校として設立されました。既に同志社は英学校卒業後に、専門教育を授ける学校として大学設立のための募金運動に着手していましたが、予備校は大学準備教育機関としての英学校のレベルアップと質の高い生徒・学生の育成を企図されていました。

<同志社神学校>



草稿「同志社神学校(英邦)学科目表」



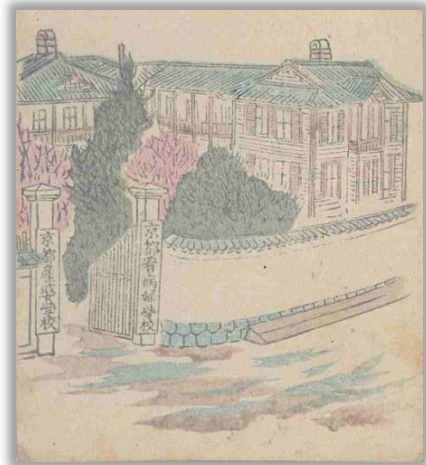
草稿「神学専門科設立御願」

同志社英学校において、開校の翌年 1876 年（明治 9）からクラスや学科を設けて神学教育を実施してきましたが、1889 年（明治 22）に初めて独立した学校として開校したのが同志社神学校です。それ以前の同志社における神学教育は、英語での学習を中心とした本科と、日本語での学習を中心とした別科で実施されており、神学校においても同様の意図で英語神学科と邦語神学科が設けられ、神学教育が実践されていたと考えられます。

<同志社病院・京都看病婦学校>



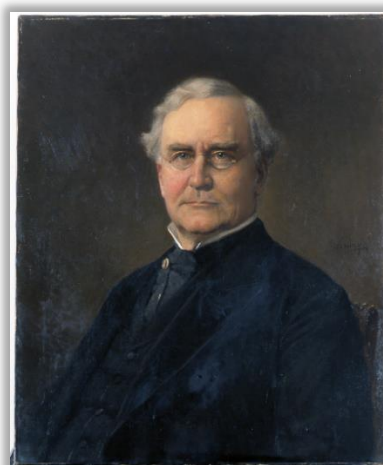
京都看病婦学校校舎



封筒（部分）京都看病婦学校絵入

1887 年（明治 20）開院・開校。現在の KBS 京都の場所（上京区烏丸上長者町）にありました。新島は当初医学校の開設を目指し、協力者である J. C. ベリーとともに教派を越えて資金集めに奔走していました。しかし、諸事情から開校資金の目処が立たず、最終的には病院の開院と看病婦学校の開校に落ち着きました。特に、看病婦学校は同志社開校から 12 年目にして開校した、同志社初の自然科学系専門教育機関でした。

<J.N.ハリスとハリス理化学校>



竣工時のハリス理化学館 ナポレオン・サロニー作「J. N. ハリス肖像画」

J.N. ハリスはアメリカ・コネティカット州セイレム生まれ、同州ニュー・ロンドンにて20歳から商業に携わって成功し、ハリス商会を設立します。後には、本業とともに銀行の頭取や製薬会社の社長をも兼務するなど、財界で成功した人物でした。また、教育・宗教関係への多額の寄付者としても知られていました。ハリスは新島の理化学教育に対する熱意に賛同し、同志社へ10万ドルを寄付します。その一部がハリス理化学館建設に充てられ、同時にハリス理化学校が開校しました。ただし、ハリス理化学校は財政難のため、7年で閉校になります。同志社における理化学教育の再興は、1944年（昭和19）同志社工業専門学校開校の時でした。現在のハリス理化学研究所はハリス理化学校の伝統の上に立ち、革新的な研究を続け、学生の教育・研究の活性化を促進しています。

<同志社政法学校>



同志社有終館

小野英二郎

1891年（明治24）に仮開校し、翌年正式に開校した学校で、当初は有終館を校舎としていたといわれます。憲法や政治・経済・行政にかかわる法律全般に加え、国際法までを中心に学ぶ政治科と、経済学と商学の幅広い分野を学ぶことを主とした理財科が設けられていました。政法学校のまとめ役である教頭は同志社英学校出身の小野英二郎で、アメリカのミシガン大学で博士号を取得した、理財学に通じた人物です。政法学校を離れた後、日本銀行に入行し、その後は第4代日本興業銀行総裁を務めています。

<オープン・プログラム (キリスト教文化センター主催) >



京田辺校地 手話入門クラス



今出川校地 パイプオルガン講座受講生発表会

1958 (昭和 33) 年 4 月にキリスト教文化センターの前身である宗教部が主催した 4 つの研究会を基にして、「公開講座」がスタートしました。1981 (昭和 56) 年の国際障害者年を機に「手話」と「点訳」の講座を開設。2010 (平成 22) 年度からは名称を「オープン・プログラム」へと変更し、その後も公開講演会の開催や多様な講座の新規開講などにより、一層の発展を遂げています。これまでの受講生は 9,000 人を超え、学生のみならず市民の皆さんも多数参加されています。開講している講座は、キリスト教文化センターのホームページをご覧ください。

<http://www.christian-center.jp/>

<学生スタッフの活動>



クリスマス・リース作り講習会



チャペル・アワー司会

キリスト教文化センターの多岐にわたる事業を教職員とともに支える存在として、学生スタッフが活動しています。かつては、チャペル・アワーの司会やクリスマス燭火讃美礼拝での聖劇出演などが活動の中心でしたが、これらに加えて、在學生を対象とした「クリスマス・リース作り講習会」の開催、教会の礼拝への参加、SNS を利用した情報発信、フリーペーパー「YES!!!」の発行など、近年そのフィールドは広がっています。学生スタッフの募集は 1 年を通じて行っていますので、関心のある方はキリスト教文化センター事務室までお尋ねください。

<Doshisha Spirit Tour (キリスト教文化センター主催) (熊本キャンプ/安中・会津キャンプ) >



新島襄旧宅 (群馬県・安中市)



熊本洋学校教師ジェーンズ邸 (熊本市)



熊本バンド奉教之碑 (熊本市花岡山)

同志社大学には、建学以来脈々と受け継がれてきたキリスト教主義教育、新島襄の教育理念、そしてその実践といった精神と伝統があります。キリスト教文化センターが主催するDoshisha Spirit Tourは、事前学習と現地でのフィールドワークを通じて建学の精神を体感し、同志社を見つめ、自らを省みようとする試みであり、同志社ゆかりの地である「熊本」と「安中・会津」を隔年で訪れています。

熊本は、のちに日本のキリスト教史において「熊本バンド」と呼ばれ、設立当初の同志社を形作った俊才たちを生み出した土地。安中は言うまでも無く、新島襄の祖父の地(安中藩)であり、会津は同志社草創期に新島の「同志」となった山本寛馬、そして新島の妻・八重を育んだ地です。

資料リスト (全て複製)

資料名	作者・著編者	年代	法量(cm)	員数	所蔵先
展示テーマ「新島襄の学校構想」					
同志社大学設立之主意之骨案	新島襄	1882年	26×19	1冊	同志社社史資料センター
演説草稿	新島襄	明治時代	25×35	3枚	同志社社史資料センター
自責の杖	-	明治時代	最大60	3片	同志社社史資料センター
新島襄旧蔵聖書	-	年不詳	21×14	1冊	同志社社史資料センター
同志社大学設立の旨意	新島襄	1888年	21.5×14.8	1冊	同志社社史資料センター
同志社大学義捐者姓名簿	-	1889年	26.5×18	1冊	同志社社史資料センター
展示テーマ「新島襄の実績」					
草稿「私塾開業願」	新島襄	1875年	本紙25.7×35.8	1巻	同志社社史資料センター
同志社学院規則概覧	同志社	1888年	32.7×52.3	1枚	同志社社史資料センター
同志社女学校規則	同志社女学校	1883年	19.1×13.2	1冊	同志社社史資料センター
同志社受験予備校概則	同志社予備校	1886年	19.7×13.7	1冊	同志社社史資料センター
同志社ハリス理化学学校規則	同志社ハリス理化学学校	1893年	21.9×15.2	1冊	同志社社史資料センター
同志社政法学校略則	同志社政法学校	1892年	28.8×42.2	1枚	同志社社史資料センター

写真リスト

ポスター・パネルタイトル	写真・画像	年代	所蔵先
展示テーマ「新島襄の学校構想」			
新島襄の学校構想	同志社大学設立之主意之骨案 同志社所有地明細図(部分)	1882年 1890年	同志社社史資料センター
同志社礼拝堂	竣工当時の同志社礼拝堂 竣工当時の礼拝堂内部	1886年ごろ 1886年ごろ	同志社社史資料センター
書籍館(現同志社有終館)	大正時代の書籍館 明治時代の書籍館内部	大正時代 明治時代	同志社社史資料センター
新島襄が考えた同志社大学	同志社大学設立之主意之骨案 同志社大学設立の旨意	1882年 1888年	同志社社史資料センター
新島襄が伝えた寄付の意味	演説草稿	年不詳	同志社社史資料センター
同志社大学の誕生	専門学校令による同志社大学開校式 専門学校令による同志社大学開校記念集合写真	1912年 1912年	同志社社史資料センター
同志社教育のバックボーンとなるキリスト教主義	キリスト教文化センター発行『基督教主義を以って徳育の基本と為せり-同志社大学とキリスト教主義-』所収	現代	キリスト教文化センター
チャペル・アワー	京田辺校地 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂 同志社大学応援団による演舞	現代 現代	キリスト教文化センター
Doshisha Spirit Week	講演会 キャンパスめぐり隊	現代 現代	キリスト教文化センター
展示テーマ「新島襄の実績」			
新島襄の実績	同志社所有地全図	1890年	同志社社史資料センター
同志社予備校	同志社予備校設立之主意	1887年	同志社社史資料センター
同志社神学校	草稿「同志社神学校(英邦)学科目表」 草稿「神学専門科設立御願」	年不詳 年不詳	同志社社史資料センター
同志社病院・京都看病婦学校	京都看病婦学校校舎 封筒(部分)京都看病婦学校絵入	1893年 年不詳	同志社社史資料センター
J. N. ハリスとハリス理化学学校	竣工時のハリス理化学館 ナポレオン・サロニー作「J. N. ハリス肖像画」	1890年ごろ 1891年	同志社社史資料センター
同志社政法学校	同志社有終館 小野英二郎	現代 年不詳	同志社社史資料センター
オープン・プログラム	京田辺校地 手話入門クラス 今出川校地 パイプオルガン講座受講生発表会	現代 現代	キリスト教文化センター
学生スタッフの活動	クリスマス・リース作り講習会 チャペル・アワー司会	現代 現代	キリスト教文化センター
Doshisha Spirit Tour	新島襄旧宅(群馬県・安中市) 熊本洋学校教師ジェーンズ邸(熊本市) 熊本バンド奉教之碑(熊本市花岡山)	現代 現代 現代	キリスト教文化センター



同志社京田辺会堂光館ラウンジ展示第7期展

「新島襄の学校構想—新島の描いた Vision と Challenge—」

編集：同志社大学同志社社史資料センター

発行：同志社大学キリスト教文化センター

発行日：2018年3月15日

©Doshisha Archives Center and Center for Christian Culture